

パソコン通信の活用に関する学生の意識

倉元博美

1. はじめに

コンピュータ（含ワープロ）の高性能化・低価格化により、コンピュータの導入は急速に進み、パソコン通信の利用も普及し始めてきている。このようななか、教育においてもネットワークを組んでの利用がなされてきつつある。なかでもパソコン通信は、公衆回線を使用しての文字データ交換システムであり、コンピュータやワープロに軽廉な通信設備を追加するだけで利用できるという利点がある。

そこで、学生が自作の資料を配布するメディアとして、パソコン通信を活用し、情報の発信者と受信者の立場を体験させた。

本稿では、パソコン通信を利用した際の女子短大生の意識について報告する。

2. システムの概要

機器は、ホスト局1台(NEC PC-9801)、ターミナル2台(NEC PC-9801)、モデムで、学内の内線電話回線（電子交換機使用）を用いた。（図1）

通信ソフトは、ホスト、ターミナルともフリーソフトウェアを使用した。

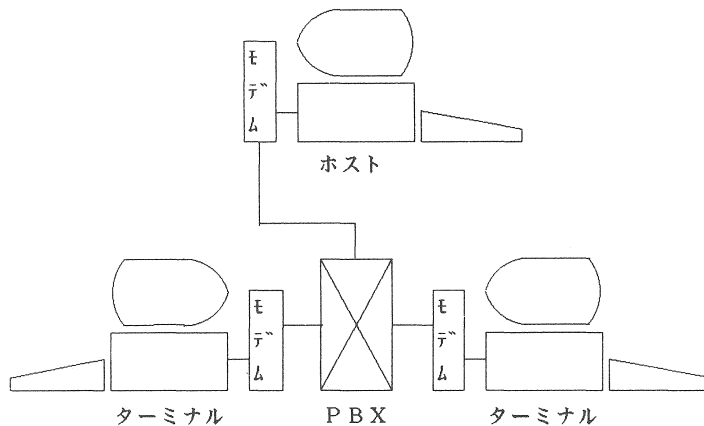


図1 システム構成

3. 授業の方法

授業は、6～7名のグループを編成し、グループ毎にテーマを定め、資料収集・まとめを行いその内容をホスト局へ送信する。(発表日1週間前まで)

担当グループ以外の学生は、送信されたファイルをホスト局から受信し、事前に予習を行う。そして、グループ毎に発表、質疑応答、補足(教師)という形態で行った。

4. 学生の現状

「短大で習う以前にパソコン通信を知っていましたか」

知っていた	42%
知らなかった	58%

受講者数は89名で、パソコン通信を「知っていた」と答えたものは、大半が高校時に「新聞・雑誌・テレビ等で名前だけは知っていた」と答えており、パソコン通信を実際に体験したのではなく、殆どの学生がこの授業での利用が始めてであった。

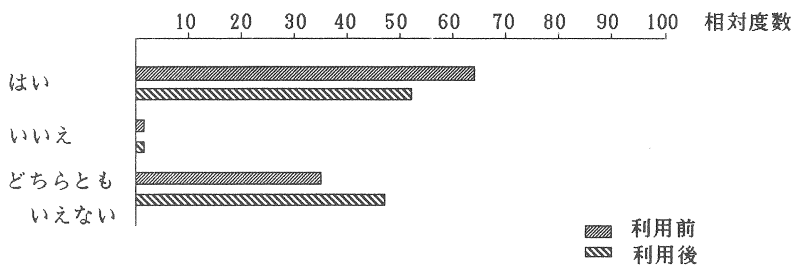
最初の授業時にパソコン通信についての説明(操作法等)を行いその後に、「パソコン通信に興味がありますか」については、

はい	69%
いいえ	4%
どちらともいえない	27%

と、かなりのものが興味を抱いたようである。

5. 利用に関しての意識

「パソコン通信はおもしろいと思いますか」



「おもしろいと思う」と答えた理由としては、「様々な情報が得られる」36%、「知らない人と話ができる」21%、「多くの人と知り合える」「興味があった」9%、「便利そうである」「いろいろな事に

活用できそう」6%、その他「趣味としてやっていけそう」「相手が見えないから」「めずらしくて楽しかった」等の意見があげられている。

「おもしろいと思わない」と答えたものは、「操作の説明がわかりにくい」という理由であった。また、「どちらともいえない」と答えた理由は、「おもしろさが分かるほど使用していない（授業以外で使用していない）」38%、「操作が難しい」27%、「通信がうまくつながらない」12%、「通信がよく理解できていない」7%、その他「熱中してしまいそうで怖い」「コンピュータに弱いから」「ホストの情報が少ないから」等の意見があげられている。

「通信がうまくつながらない」に関しては、配線はなされているがつかないことがある（1回つながると2回目からはつながる）。また、電子交換機を通して内線電話を使用しているためか、交信中にノイズが入り回線が切れてしまう等のトラブルで印象を悪くしたこともあるかもしれない。

利用前と利用後の状況を見ると、単に利用前に「おもしろいと思う」と答えたものが、「どちらともいえない」に移行したように見えるがその内容を詳細に見ると、利用前に「おもしろいと思う」と答えた者の利用後の状況は、

おもしろいと思う	73%
思わない	2%
どちらともいえない	25%

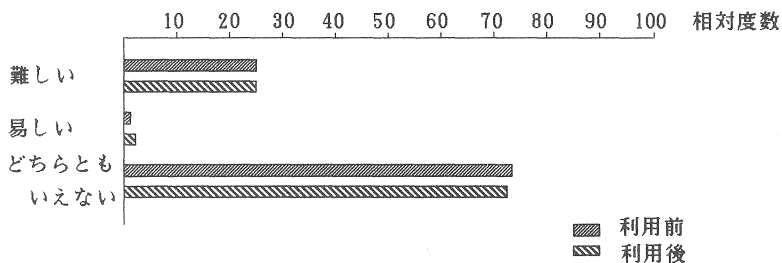
で、「おもしろいと思う」が利用後に減っている。これは「操作が難しい」という理由からである。また、利用前に「どちらともいえない」と答えた者が利用後は、

おもしろいと思う	19%
思わない	0%
どちらともいえない	81%

と答え、操作性の問題はあるものの興味を抱いた者も少なくはない。

パソコン通信の操作性については、

「パソコン通信の操作についてどう思いますか」



利用前と利用後は偶然にもほぼ同じ値であるが、利用前に「難しい」と答えた者の利用後の状況を見ると、

難しい	65%
易しい	0%
どちらともいえない	35%

となっている。また、利用前に「どちらともいえない」と答えた者が利用後は、

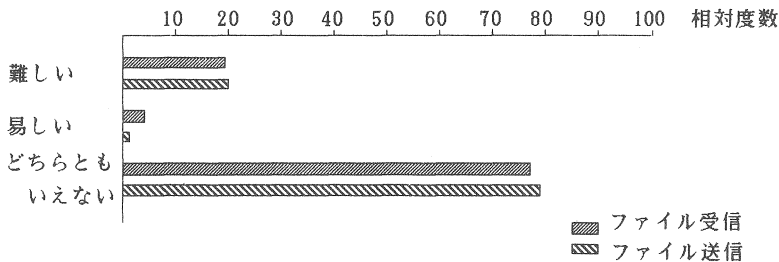
難しい	11%
易しい	3%
どちらともいえない	86%

と答えている。実際に操作を行って「難しいと思わない」者もいる反面、操作を行って「難しいと思う」者もいる。ともあれ、「操作が難しい」と感じているものが25%いることは見のがせない。

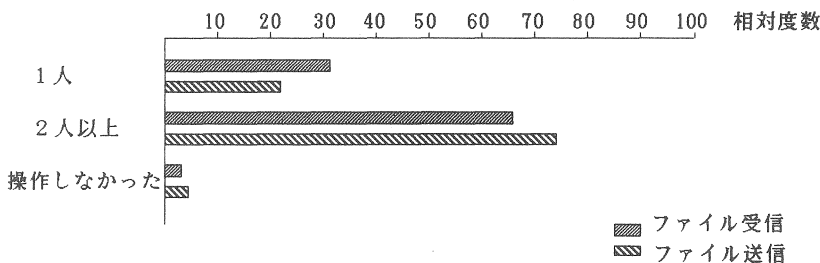
この理由としては、「操作が複雑」29%、「難しい単語が多い」「手順が理解できない」「基本的なことが解っていない」14%、その他「つながらないときがある」等があげられている。

また、「どちらともいえない」と回答した者の理由を見ると、「同時に使えない（ふさがっている）」53%、「操作が複雑」21%、「時間がかかる」「操作法を画面上に指示して欲しい」等の意見があげられ、ここにも操作性の問題がうかがわれる。

ファイルの受信・送信の操作性については、
「ファイルの操作法についてどのように思いますか」



「ファイル操作は何人で行いましたか」



送信も受信も1人で操作した	15%
送信は1人で操作したが受信は2人以上で操作した	7%
受信は1人で操作したが送信は2人以上で操作した	15%
送信も受信も2人以上で操作した	63%

ファイル操作に関しては、「送信の方が難しい」と答えた者が多い。

また、「操作は難しい」と答えた者は、機械に対しての苦手意識もあってか、操作を「一人で行った者」は33%で、残りの67%の者は「2人以上で操作」を行っている。

ファイル操作に関しても、「手順が面倒である」21%、「操作が複雑」「説明書を見ないとできない」14%、その他「難しい単語が多い」「横文字が多い」「間違ったときの操作が不便」等の意見があげられ、ここにも操作面に関しての不満がうかがえる。

反面、「一回操作したら理解できた」と回答しているものや、「操作は易しい」と答えたものもいることは付記しておく。

「通信の操作」と「おもしろさ」との関連については、

通信の操作は難しいがおもしろい	11%
通信の操作は難しいのでおもしろくない	0%
通信の操作は難しいのでどちらともいえない	14%
通信の操作は易しいのでおもしろい	0%
通信の操作は易しいがおもしろくない	0%
通信の操作は易しいがどちらともいえない	2%
通信の操作はどちらともいえないがおもしろい	41%
通信の操作はどちらともいえないがおもしろくない	1%
通信の操作もおもしろさもどちらともいえない	31%

という意見から推察すると、通信の操作に難しさを感じてはいるもののどちらかというとおもしろみを感じているといえる。

他のソフト（エディタ）[フリーウェアを使用]との操作性についての意識の比較を次に示す。

「エディタの操作についてどう思いますか」

難しい	15%
易しい	4%
どちらともいえない	81%

と答えており、パソコン通信の操作に比べると「難しい」と答えた者は少ない。

エディタとパソコン通信の操作を比較してみると、

エディタの操作も通信の操作も難しい	12%
エディタの操作は難しいが通信の操作は易しい	0%
エディタの操作は難しいが通信の操作はどちらともいえない	4%
エディタの操作は易しいが通信の操作は難しい	0%
エディタの操作も通信の操作も易しい	0%
エディタの操作は易しいが通信の操作はどちらともいえない	4%
エディタの操作はどちらともいえないが通信の操作は難しい	13%
エディタの操作はどちらともいえないが通信の操作は易しい	3%
エディタの操作も通信の操作もどちらともいえない	64%

エディタの操作よりパソコン通信の操作の方が「難しい」と答えており、ここでもパソコン通信の操作性の問題がうかがえる。

6. まとめ

パソコン通信が普及し始め、その利用法は多岐にわたり教育の中にも利用され始めている。しかしながら、その操作法については筆者自身も手間取った経験を持っている。

パソコン通信はおもしろい、興味があるという学生が大半であるにもかかわらず、なぜパソコン通信が難しいと感じるのであろうか。

これについては、「苦手意識が強い」、「自分からは手を出さない」、「複雑で面倒なことはいやがる」という一般的な理由も考えられるが、「操作が複雑」「難しい単語が多い」「横文字が多い」「手順が面倒」「手順が理解できない」「操作手順を画面上に指示して欲しい」「説明書を見ないとできない」「間違っただけの操作が不便」等の意見があげられているのを見ると、操作方法自体にも問題がないとはいえない。また、パソコン通信に限らずコンピュータの操作は、専門用語（横文字）が多く使われている。これが障害になっている可能性が大きい。女子短大生特有の問題かもしれないが、もっと初心者でも簡単に操作できるものが必要ではなからうか。これは今後の課題であるが、例えば簡単なメニュー方式（画面上で単純かつ明快な指示に従うだけで操作できる）にしたなら、操作性に関してはもっとよい結果が得られるのではなからうか。

本研究は、教育の中でのパソコン通信の活用法を探る目的で試みた。

パソコン通信を授業の中で用いることについて、

「このようなパソコン通信を利用した授業についてどう思いますか」

よい	54%
悪い	0%
どちらともいえない	46%

という結果をみると、操作法についての不満が問題とはなかったもののパソコン通信を用いることについての不満は少ない。

今後の利用法としては、「学校で質問できなかったことや先生に聞いてみたいことなど自宅から通信できたら便利」「先輩との情報交換（就職情報等）」「他の学校や友達等との情報交換」「学校からの掲示板（家庭との連絡）」という学生の意見にも見られるように様々な利用が考えられる。今後の利用の仕方によっては、コンピュータを活用した授業改善の一端となり得るのではなかろうか。

参 考 文 献

- 1) 矢内秋生・池田勝枝・新井正：家政系短大における総合的情報教育の試み（V） 教育工学関連学協会連合第3回全国大会講演論文集，（1991）
- 2) 戸塚滝登：国際パソコン通信で学ぶ理科，教育メディア，（1989.2）
- 3) S T S（教育&ソフト）編：実践とソフト開発（パソコン通信で何ができるか），大日本図書
- 4) 染岡慎一・島田留美子・吉田行宏・大作勝：スクールネットワークの教育機能について，平成3年度情報処理教育研究集会講演論文集（主催文部省），（1991）
- 5) 伊東良朗：中学校における国際パソコン通信の試み，教育メディア，（1989.2）
- 6) 藤木卓：通信ネットワークによる授業システムの開発，教育工学関連学協会連合第3回全国大会講演論文集，（1991）
- 7) 学研：NEW「教育とマイコン」，（1987.10），（1989.1）
- 8) 三宅なほみ：パソコン通信で「できること」と「やりたいこと」，教育メディア，（1989.2），小学館
- 9) 瀬戸博幸：パソコン通信による学内通信システムについての一考察，鹿児島女子短期大学紀要第26号，（1991），95～101頁
- 10) 蓮見信夫：パソコン通信の教育的活用，日本教育工学会第6回大会講演論文集，（1990）
- 11) 真田克彦・三仲啓・遠矢守・園屋高志：パソコン通信の教育利用について（鹿児島県における実態と問題点） 鹿児島大学教育学部研究紀要，（1989），教育科学編，第41巻